六回シリーズ

「貯蓄から投資へ」（最終回）

『総括』今なぜライフプランが必要なのか～資産管理の重要性～

資産管理を考えた場合以前と一番違うのはまず金利だと思います。金利を説明するにはいろいろな要因がありますが、例えば経済情勢や為替状況、政治的要素などさまざまな要因に影響を受けますが、一番わかりやすいのは日本の成長力だと思います。今日本は成熟経済期（低成長期）に突入し、昔の高度経済期のような高金利の時代にはなりにくいと予想されます。昔は七％程度の預金金利だと十年で元本が約倍になりましたが、今の超低金利ではほとんど元本が増えないのが現実です。

経済の変化に対応しながら、実りある充実した人生を送るためにはいろいろ考えなければならない時代に直面しています。

例えば、セカンドライフを送る上では、四つのポイントがあります。すなわち①「収入計画を持つこと」②「長寿への備え」③「インフレへの備え」④「医療介護への備え」

①「収入計画」、セカンドライフでは膨大な自由な時間を手にすると同時に、収入と支出のバランスが大きく変わるステージに立たれている、ということです。

頼みの綱は公的年金ですが、それだけで豊かな暮らしを楽しめるかは、少々疑問が出ます。実際、平均的な高齢者世帯の家計は毎月五万円の赤字になっています。年金制度の将来に関心（不安？）が持たれている昨今だけに、なおさら不安になる方も多いでしょう。

②「長寿への備え」、この数十年で、日本人はずいぶん長生きになりました。つい以前は、人生六十年といわれていたことを考えると隔世の感があります。百歳以上の人など、以前はほんのひと握りしかいませんでしたが、今では二万人を超えています。四十年前と比べると、その後は実に、十五倍以上です。豊かな社会でセカンドライフを謳歌できる今の日本人は、史上かつてない幸福者といえるのではないでしょうか。しかし、喜んでばかりもいられません。なぜならば、長生きをすればするだけ生活費（お金）が掛かってしまうからです。好きなことをして楽しもうと思えばなおさらのことです。

また「少子高齢化」、「人口減少を迎える日本」等が話題になっていますが、厚生労働省の長期的な日本の人口動向を予測した「将来推計人口」では、五十年後二〇五五年に、日本の人口は現在から三割減り、九千万人を切ります。一人の女性が生涯に産む子供の推定数を示す合計特殊出生率も前回の一・三九から一・二六へと大幅に修正しました。今後の年金制度や医療制度に影響を与えるものと思われます。

③「インフレ」、生きているその間の物価上昇も警戒したいことです。資産管理の一番の大敵はインフレです。日本経済は近年、まれにみるデフレ期を経験しましたがそれも変化の兆しが見えてきています。一円の価値は常に一円ではないということです。一個二百円のアイスが来年には五百円、千円になるのがインフレです。

④「医療、介護」、長寿を存分に楽しむためには、心と体の健康が不可欠です。ただ、ずっと元気でいられるか、気がかりな方も多いのではないでしょうか。最近は医療技術が進歩したおかげで、不治といわれた難病でも治るケースが増えてきました。でも結果として、生涯の医療費負担が増えていることに無頓着ではいられません。高齢期においては急な病気に見舞われる可能性もあり、入院期間も長引くこともあります。また夫婦のどちらかが要介護状態になれば、そのための出費が暮らしを圧迫します。急な資金の入り用に対応するための、もしもに備えることも必要となります。

人生が十人十色であるように、ライフプランも人それぞれに違います。自分の価値観を改めてもう一度考えてみてこれからの充実した人生を送る為の参考にしていただければと思います。

今回が六回シリーズの最後となりました。「貯蓄から投資へ」のテーマでお送りしてきましたが、少しでも皆様のお役に立てたなら幸いに思います。大変ありがとうございました。

野村證券　新潟支店
ファイナンシャルアドバイザー課
次長　大下　智明
TEL025(225)7755㈹